

「クリエイターの話 ～私のイメージの源泉」

スペースデザイン部会員 あめ もり ひろ こ
雨森 浩子

『時間と糸の積み重ね』

私は、織物やプライ・スプリットで作品を制作しています。今回は、時間と糸を積み重ねてプライ・スプリットで作品を制作してきた過程を振り返ってみたいと思います。

プライ・スプリット (Ply-Sprit Braiding) とは、インド北西部グジャラート州、ラージャスターン州の放牧民ラバーリーの男性たちがつくるラクダの腹帯に用いられているテキスタイル技法の一種です。オフルーム (off-loom 織機を使わない) の技法で道具は、グリッドフィド (gridfid、挟 [くじり]) のみです。Ply (プライ) は、「撚り」、Split (スプリット) は、「割る」「分割」を意味しています。

私は、織物の組織や構造に特に関心があり、腰帯機 (backstrap loom) で製織されたアンデスの染織を学び、作品制作に活かしてきました。プライ・スプリットも組織や構造に着目して作品を制作しています。腰帯機による製織やプライ・スプリットの手や体を最大限活かすものづくりに心惹かれています。

腰帯機は、腰帯で固定した身体を前後して経糸の張り具合を調節しながら織っていきます。腰帯機は、使用しない時は棒に巻いて仕舞う携帯性に優れています。プライ・スプリットもグリッドフィドのみで手と体を使って制作していき、どこでもできる携帯性も興味を引きました。



画像左：グリッドフィド（糸の太さに合わせてグリッドフィドを使いわける）

画像右：糸撚り器（様々な素材で2～4本の撚り糸をつくる）

プライ・スプリットで作品をつくるきっかけは、2003年の日本クラフト協会主催のプライ・スプリットの講習会の受講とその後に結成された研究会とグループ展の参加でした。

講習会で指導にあたった嶋貫昭子先生（元東京造形大学教授）は、複雑な色合いが魅力のプライ・スプリットの作品を精力的に制作され、個展等で発表されていました。また、プライ・スプリットは、糸による造形作品に展開できる可能性のある技法だと力説され、プライ・スプリットによる作品の制作を熱心に勧められていました。

嶋貫先生をアドバイザーに迎えた研究会は、プライ・スプリットの作品をグループ展で発表することが目的の集まりでした。織物やバスケットリーの作品を制作している作家たち10名がどんなプライ・スプリットの作品を作るのか、私も興味津々でした。

2005年、2007年、2009年の3回のグループ展に参加しましたが、自分の作りたいかたちとプライ・スプリットが結びつかず、悩みながらの制作が長く続きました。

新たに参加者を募って2014年にプライ・スプリット展を開催しました。参加した16名の作品を見てプライ・スプリットの特徴や魅力に改めて気づきました。プライ・スプリットでの制作のモチベーションが落ちていましたが、もう一度プライ・スプリットと向き合って作品を作りたいという気持ちが湧いてきました。

2014年に再スタートしたプライ・スプリット展は、現在まで5回開催しました。今年（2026年）5月に6回目のプライ・スプリット展の開催を予定しています。



『cross over』（2009年制作 H86×W83cm）

プライ・スプリット展3rd Material & Technique 出品

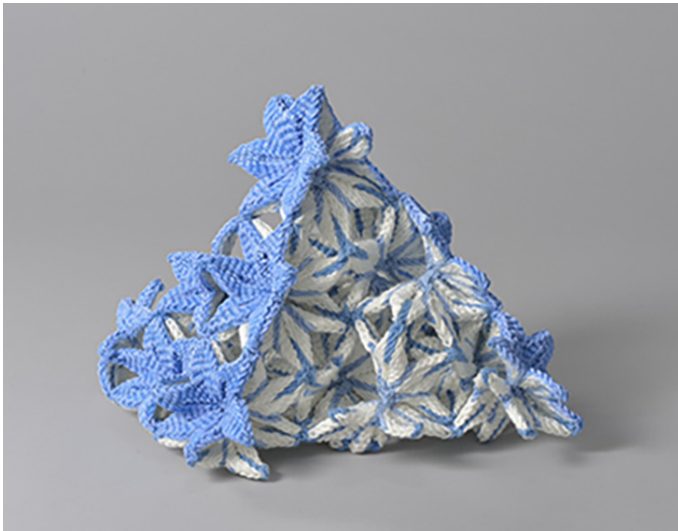
技法：プライ・スプリット 材質：麻糸

子どもの頃、带状にした紙の輪と輪を繋げる紙飾りを作って遊んでいました。

紙の輪飾りをヒントにプライ・スプリット（一方向交差）で「8」の字のユニットを作りながら同時進行でユニットとユニットを繋げて単体の作品に仕上げました。

作品を吊るすことでできる空間や重力がかかってできるかたちを意識しました。

プライ・スプリットの交差や「8」の字の交差、ユニットの輪と輪の交差、何重にも重なった交差によって複雑な動きのある奥行のある空間表現を目指しました。

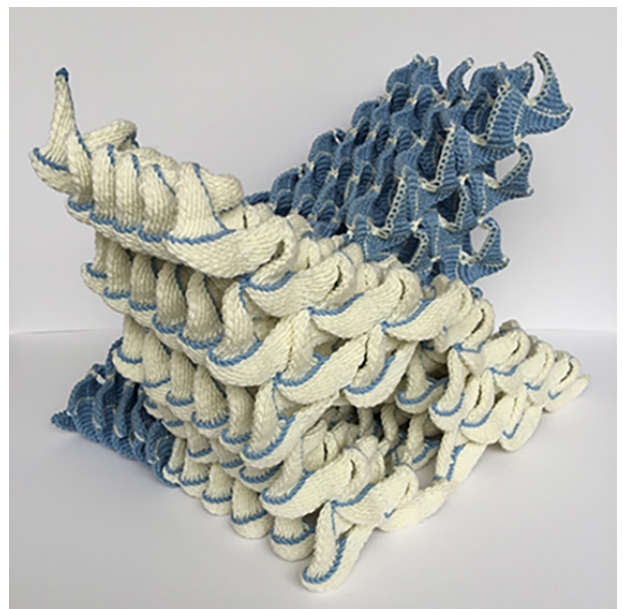
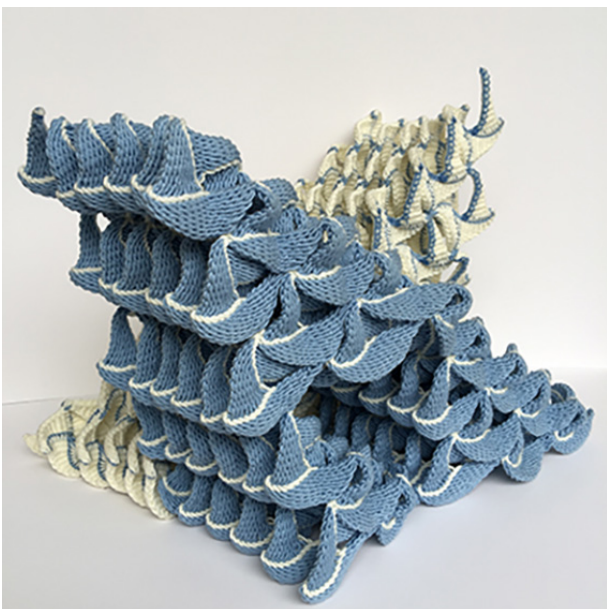


『結晶』（2015年制作 H25×W33.5×D25 cm）
第79回新制作展出品
技法：プライ・スプリット 材質：アクリル繊維

『結晶Ⅰ』は、2014年に初めて行ったプライ・スプリットのワークショップの時に思い浮かんだアイデアをもとに制作しました。

プライ・スプリット（一方向交差）で花形のユニットを作りながら繋いで制作しました。この作品から編み物のモチーフ繋ぎのようにユニットを作りながら立体に繋ぐ方法で制作するようになりました。

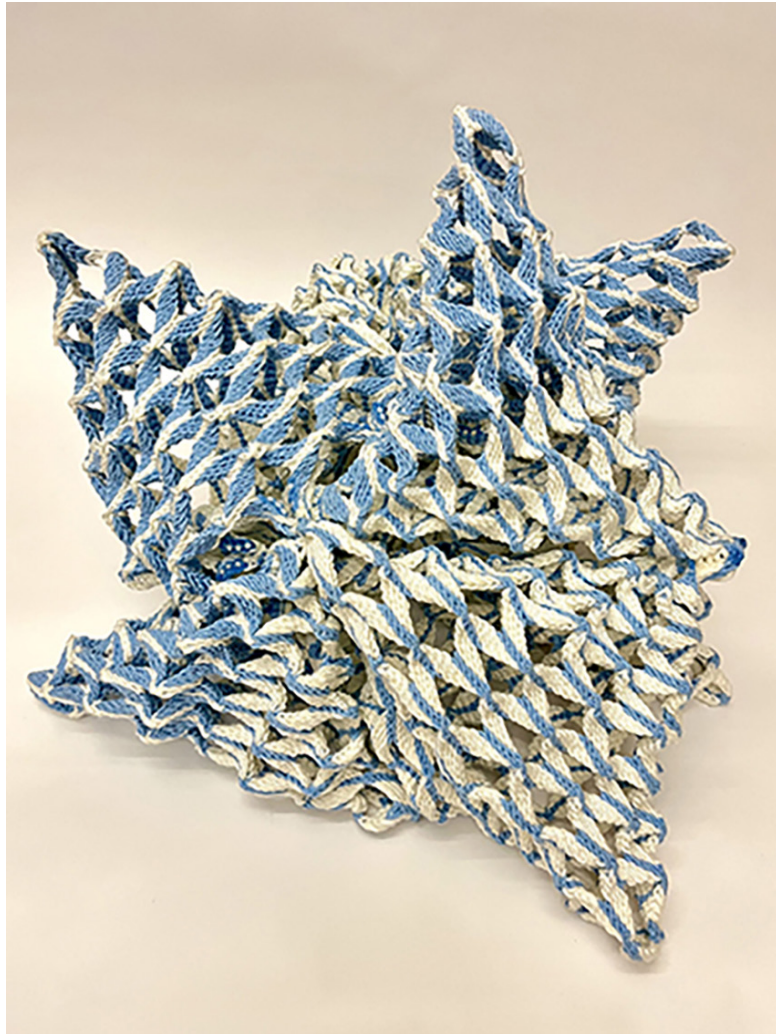
ひとつのユニットから増殖させながらかたちを形成していく様から題名を「結晶」としました。



『結晶VII』(2019年制作 H32×W40×D34 cm)
プライ・スプリット展III 出品
第4回 組紐国際会議Braids2019 世界の組紐展 出品
技法：プライ・スプリット 材質：アクリル繊維

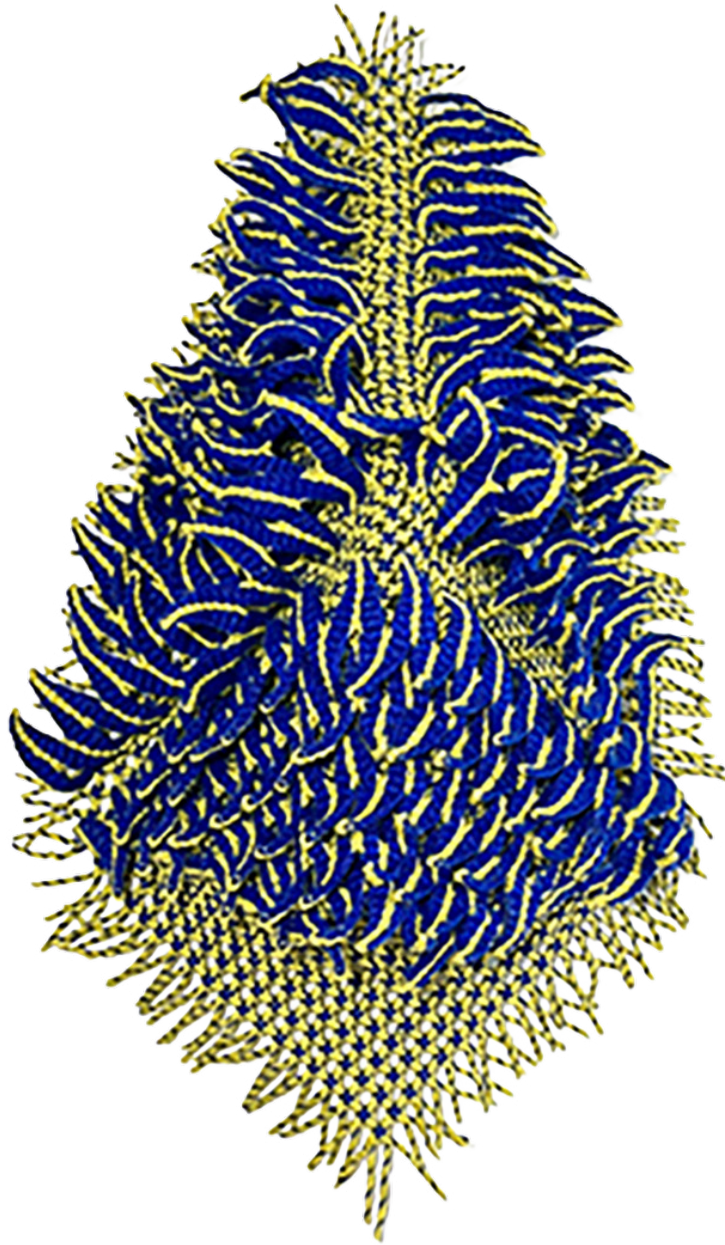
『結晶VII』は、蛇腹状のらせん状のユニットをプライ・スプリット（一方向交差）で作りながら横方向、縦方向に繋げて立体作品を制作しました。

青地に白い線の立体と白地に青い線も立体を同じ規格で制作後、重なり合う部分を結合させて単体のかたちにしました。はじめは、それぞれの立体を独立させた展示を考えていました。結合させてひとつのかたちにするとまた見た方が変わり、より複雑なかたちになったと思います。



『結晶XII』(2024年制作 H40×W45×D48 cm)
第35回バスケットリー展出品
技法：プライ・スプリット 材質：アクリル繊維

『結晶XII』は、三角錐のユニット8体を繋いで構成しています。三角錐のユニットは、プライ・スプリット（一方向交差）でシート状に作ったものを折り紙のように折って作っています。プライ・スプリットの張りのある構造を活かしてふくらみのあるかたちになりました。



『結晶 13』(2025年制作 H70×W40×D24cm)

第36回バスケットリー展出品

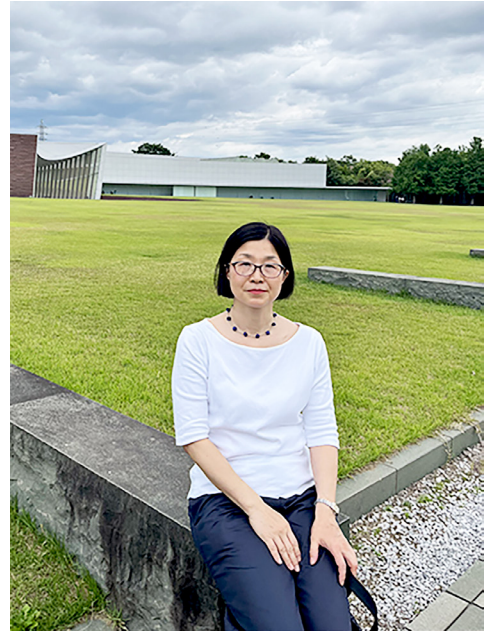
技法：プライ・スプリット 材質：ジュート繊維(黄麻)

『結晶 13』は、3本撚り紐の双方向交差の土台に2本撚り紐の一方方向交差のパーツを鳥の羽根のようにはめてボリュームのあるかたちを制作しました。これまでは、立体のかたちに注力してきましたが、今後は、色の要素をもっと取り入れて制作していきたいと考えています。

雨森 浩子 プロフィール

Amemori Hiroko

- 1971年 東京都生まれ
1994年 女子美術大学芸術学部工芸科卒業
2020年～ 女子美術大学芸術学部
デザイン・工芸学科工芸専攻 非常勤講師
- 1993年 第2回 国際“掌中”新立体造形公募展入選
1994年 第58回 新制作展入選
1998年 第4回 真綿のヴィジュアルアート公募展入選
2005年 プライ・スプリット展
Material&Technique (2007、2009年)
2010年 テキスタイルアート・ミニアチュール展
「百花彩才」
2014年～ プライ・スプリット展
(2016、2019、2022、2024年)
2017年～ バスケタリー展
(第30回バスケタリー展より参加)
2019年 第4回 組紐国際会議 Braids2019 世界の組紐展
2022年 織りの世界と Basketry 展
- 2014年～ 2週目ミアザ
「初めてのプライ・スプリット」講師
2022年 新・東京スピニングパーティー 2022
ワークショップ
「はじめてのプライ・スプリット」講師
2026年 組紐・組物学会
ワークショップ&レクチャー
「市松模様のプライ・スプリット」講師



<その他の情報>

プライ・スプリット展6
会期：2026年5月18日（月）～23日（土）
会場：Ginza CAT Gallery（銀座CATギャラリー）
東京都中央区銀座5-5-9 阿部ビル4階

○SD通信 Vol.70 『クリエイターの話 ～私のイメージの源泉』雨森浩子 編は如何でしたか。「時間と糸の積み重ね」というタイトルがとても印象的ですね。「プライ・スプリット」という技法についてその起源なども教えていただきました。緻密に組まれた構造美からは制作時の緊張感と共に徐々に作品が出来上がっていく楽しさも伝わってきます。実際の制作シーンも機会があれば見てみたいと強く感じました。皆さんの感想も是非お聞かせください。

◆雨森浩子さんの情報は新制作協会ホームページにも掲載されています。
→ <https://www.shinseisaku.net/wp/archives/27919>

◆SD通信のこれまでのバックナンバーは協会ホームページに掲載されています。
過去に配信したシリーズ「私を創ってくれた3つの作品」のバックナンバー（Vol.1～35）もご覧いただけます。
→ <https://www.shinseisaku.net/wp/archives/26661>

◆第88回新制作展のSD部会場の様子が見れる <バーチャルパノラマツアー>
下記のアドレスからアクセスください。
→ <https://r93840544.theta360.biz/t/e3b09dbc-9430-11f0-b697-060182f6995f-1>

◆88回展の会場の様子が見れる <バーチャルパノラマツアー> 下記のアドレスからアクセスください。
→ <https://r93840544.theta360.biz/t/e3b09dbc-9430-11f0-b697-060182f6995f-1>

◆今年2月に建築会館ギャラリーで開催された『88th 新制作展 スペースデザイン部受賞作家展』の記録はこちらでご覧いただけます。
→ https://www.shinseisaku.net/wp/wp-content/uploads/2025/08/202688th_jyusyo-artist.pdf
合わせて<バーチャルパノラマツアー>もご覧ください。
→ <https://r93840544.theta360.biz/t/9d6c394e-fdb0-11f0-9f86-0a7fdda087bb-1>